

## 「『国民の声』を聴く会」（第5回）議事要旨

### 1 日時

- (1) 技能実習生  
令和元年11月26日(火) 午前11時00分から正午まで
- (2) 日本語学校生  
令和元年11月27日(水) 午後0時30分から午後1時30分まで
- (3) 大学生  
令和元年11月27日(水) 午後2時30分から午後3時30分まで

### 2 出席者

- 外国人個人
  - (1) 技能実習生  
インドネシア国籍 男性 2名
  - (2) 日本語学校生  
ベトナム国籍 男性 1名  
ネパール国籍 女性 1名
  - (3) 大学生  
中国籍 女性 2名
- 出入国在留管理庁  
福原政策課長, 高橋外国人施策推進室長ほか

### 3 議事

- (1) 出入国在留管理庁からの説明  
(外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策等について)
- (2) 意見交換

### 4 資料

- 1 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 (概要)
- 2 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策の充実について (概要)

### 5 概要

出入国在留管理庁から、議事(1)について、資料1及び2に基づき説明を行った。

その後行った意見交換における技能実習生、日本語学校生及び大学生の発言要旨は以下のとおり。

(技能実習生)

- 日本で生活する上で必要な情報は、主にインターネットやNHK(やさし

い日本語で書いたニュース) から得ている。

- 困り事は、職場では日本人社員に、職場外では在留中のインドネシア人に相談することが多い。また、監理団体の担当者に相談することもある。
- 市役所や県の窓口にはあまり行かないが、インドネシア語で幅広く相談できる窓口があれば利用したい。
- SNSの中ではF a c e b o o kをよく利用するので、行政の相談窓口の情報をF a c e b o o kで共有してもらえると利用しやすくなると思う。
- 前回の台風19号の時はNHKを見て情報を得ていた。また、日本語が分からない同国人もいるため、F a c e b o o kで情報を共有していた。
- 職場で毎日日本語を勉強する時間があり、日本人の社員から日本語を教えてもらっている。また、ボランティアが行っている日本語教室に個人的に参加し、日本語を学んでいる。
- 毎日業務日誌をつけ、日本人社員に添削してもらっている。
- 初診や大きな病気の際は職場の日本人社員に連れて行ってもらう。
- 市販薬は、性能や成分表示などの日本語が難しく自分で購入するのは不安なため、会社からもらうか母国から送ってもらうことが多い。
- 宗教上、豚肉が食べられないので、日本のレストランにはあまり行かないが、最近はインドネシアレストランやハラルフードが増えてきているように感じてうれしい。
- 日本で生活する上で不便な点は、外出時にお祈りする場所がなくて困っており、駅等公共機関にお祈りするスペースがあると助かる。

(日本語学校生)

- 困り事は、学校の先生に相談することが多い。また、学校の先輩に相談することもある。
- 行政への相談は、市役所の窓口に行くよりもメール等でできると便利。
- 前回の台風19号の時は、テレビと携帯電話のニュースを見て情報を得ていた。
- 緊急時における情報発信は、日本語を勉強していない人のために母国語かやさしい日本語で行われれば便利と考える。
- アルバイト先はインターネットで見つけた。また、アルバイトで困ったことがあれば店長に相談することが多い。
- 銀行口座の開設やアパート、携帯電話の契約等は日本語が難しいため、多言語での対応や、やさしい日本語での説明や情報があれば便利と考える。
- 入学時に学校で、ゴミの出し方、電車の乗り方、日本の文化等日本で生活

する上でのマナーやルールについて教えてもらい、とても助かった。

(大学生)

- 情報を得たいときは、Facebookよりも公式ホームページを見るか、中国のSNSアプリを使用している。
- 生活での困り事は、友人や先輩のほか大学の国際センターやキャリアセンターに相談することが多い。
- 区役所は開庁時間が限られているため、相談や質問があるときはホームページで確認し、それでも分からなければメールや電話で質問することが多い。
- 区役所や大学の事務室などに通訳がいれば利用しやすい。また、区役所の窓口や電話相談は、予約制にするなどして通訳を手配してもらえれば利用しやすいと思う。
- 病院には一人で行くが、専門用語が分からないため、自分の状況を正確に伝えることは難しい場合もある。
- 市販薬はアレルギーがあるので、国から持ってきた薬を使うようにしている。
- Safety tipsや外国人生活支援ポータルサイトについて、周知が重要だと思う。
- 大学卒業後の就職については、日本で就職する人と帰国する人と半分ずつぐらいの割合であると感じている。
- 中国に戻った方が、給料が高くて生活費は安い場合もあり、帰国する人もいる。
- 大学で勉強した分野に関する仕事になかなか就けないことや、自分の将来のキャリアプランに合わない仕事が多いことから、帰国する人も多い。
- 就職活動については、大学にあるキャリアセンターで履歴書の書き方、面接の練習や面接時の服装、マナーを教えてもらった。また、キャリアセンターにあるチラシ等でも勉強した。

(以上)